

芸閣

～図書館だより～

第8号
2022年11月
桐蔭図書館発行

芸閣...「うんかく」と読みます。
書庫、書齋という意味です。
(「芸」は書籍に挿む虫除けの香草)

落ち葉の季節です

赤や黄に染まった葉が、はらはらと風に舞う季節です。冬が近づくと、木は葉と枝の間にしきりを作ります。水や養分が運ばれなくなるため、葉の中にあつた葉緑素が壊れ、隠れていた黄色の色素が表面に出て、葉が黄色くなります(イチョウなど)。葉の中に取り残された糖分に光が当たり、朝夕の温度が下がると、赤い色素に変わっていきます(モミジなど)。これが紅葉のメカニズムです。昼と夜の温度差が大きいほど、色鮮やかに染まっています。

図書館 文学散歩

11月13日(日)に大阪中之島美術館と国立国際美術館に行きました。大阪府立中之島図書館へ行きたかったのですが、日曜日は休館日。それで美術館巡りになりました。

大阪中之島美術館では「ロートレックとミュシャ パリ時代の10年」という展覧会、国立国際美術館では「すべて未知の世界へーGUTAI 文化と統合」という特別展を観ました。大阪中之島美術館ではミュシャの作品に一目惚れして、ポストカードを買ってしまいました。あいにくの雨でしたが、図書館の皆で出かけることができ、楽しかったです。

(2年 女子)



新しく入った本の紹介

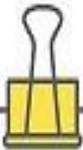


日本の小説

- 『楽園の鳥』 阿部智里 著 文藝春秋
『追憶の鳥』 阿部智里 著 文藝春秋
『烏百花 白百合の章』 阿部智里 著 文藝春秋
『君のクイズ』 小川哲 著 朝日新聞出版
『ぼくらは、まだ少し期待している』 木地雅映子 著 中央公論新社
『競争の番人 内偵の王子』 新川帆立 著 講談社
『賢者避行』 藤原七瀬 著 KADOKAWA
『今夜、もし僕が死ななければ』 浅原ナオト 著 新潮社
『キグナスの乙女たち』 佐島勤 著 KADOKAWA
『レディオワン』 斉藤倫 著 光村図書出版
『まだ見ぬ春も、君のとなりで笑っていたい』 汐見夏衛 著 スターツ出版
『わたしは告白ができない』 櫻いいよ 著 KADOKAWA
『100万回生きたきみ』 七月隆文 著 KADOKAWA
『今夜、世界からこの涙が消えても』 一条岬 著 KADOKAWA
『とんこつQ&A』 今村夏子 著 講談社



桐蔭図書館の
蔵書検索がで
きます



予告

12月の三者面談中に図書館講座を予定しています。日程はまだ決まっていませんが、中学・高校の後期図書委員さんにご予定ください。

社会科学

- 『大学生が狙われる50の危険』 青春出版社
『13才からの地政学』 田中孝幸 著 東洋経済新報社
『0才から100才まで学び続けなくてはならない時代を生きる
学ぶ人と育てる人のための教科書』 落合陽一 著 小学館

自然科学

- 『ほんとうの医療現場の話をしよう 医学部を目指す君たちへ』
高須賀とき 著 晶文社
『本当に役立つ栄養学』 佐藤成美 著 講談社
『「死んだふり」で生きのびる 生き物たちの奇妙な戦略』
宮竹貴久 著 岩波書店
『カメの甲羅はあばら骨』 川崎悟司 著 SBクリエイティブ
『認知症の人の心の中はどうなっているのか?』 佐藤真一 著 光文社

